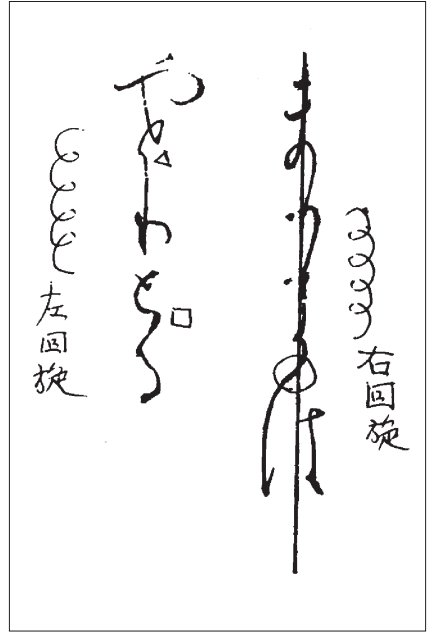


◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円

元永本古今集(392)



- 1、字句「ま可支は やと利とる」
- 2、形式「半紙を縦に使い、一行目「ま可支は」二行目「やと利とる」と二行に臨書する。落款は左余白に本文に添う大ききで「〇〇臨」と書く。
- 3、概観「かなの大部分は左から始まり右下で終わる構えをもつことから縦に連なる場合、時計の針の進行のように右回旋しながら連綿することが圧倒的です。しかし「と・を・ひ・し・れ・そ」や「あ・れ」など、終筆に左回旋を持つ(上方向へ運筆する)文字があります。これらの文字は、横書きに適するのかわりませんが、縦への連綿では、①なめらかに下方へ、②少し止まって下方へ、などがあり、無理な連綿をしないことも多くあります。
- 4、学習のポイント：連綿(その二)右・左回旋連綿
「ま可支は」…右回旋連綿
「ま」の結びで「可」を意識した運筆をする。更に「可」の右回旋時に「支」の一筆目を意識していること。・では転をあたって止め、方向を確認して連筆すること。「支」から「は」への連綿では、○で鋒先を立てて強い線で一筆目を運ぶこと。中心線(まは)を参考に、連綿線の方向と長さに注意のこと。
「やと利とる」…左回旋からの連綿
「や」の終筆は、即「と」の一筆目となる直線的な連綿である。「と」の終筆は左回旋の部分であるが、なめらかに(△)「利」の一筆目に連なる。「とる」の連綿では「と」を完全に書き、少し止まって方向を変えて(□)「る」に連なる。二つの「と」の連綿を書き分けたい。

昇試第三部 (漢字・かな) 予告

(九月二十二日締切)



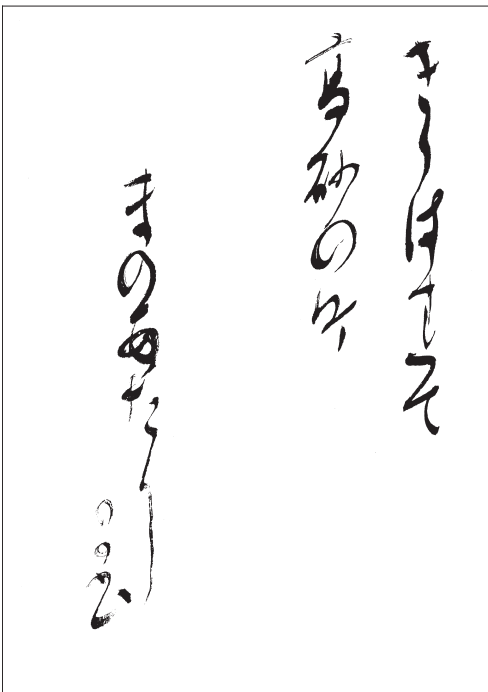
平岡華雪先生書

口を杜ず風塵の外(尤侗)

訳：世の俗事に関して言説せぬ

平岡華雪先生書

霧晴れて高砂の町まのあたり(蕪村)





条幅随意部として

『夕暮能ま可支は山とな利那、無よるはこ江しとやと利とるへく』

半切に二行又は三行に臨書する。落款は、全体の調和を考えて「○○臨」と入れる。

※随意部参考（半紙・条幅）としてもご利用下さい。抜粋可。

随意部半紙は無料。随意部条幅は一枚目無料、二枚目から五四〇円。

一字書（八月二十二日締切）

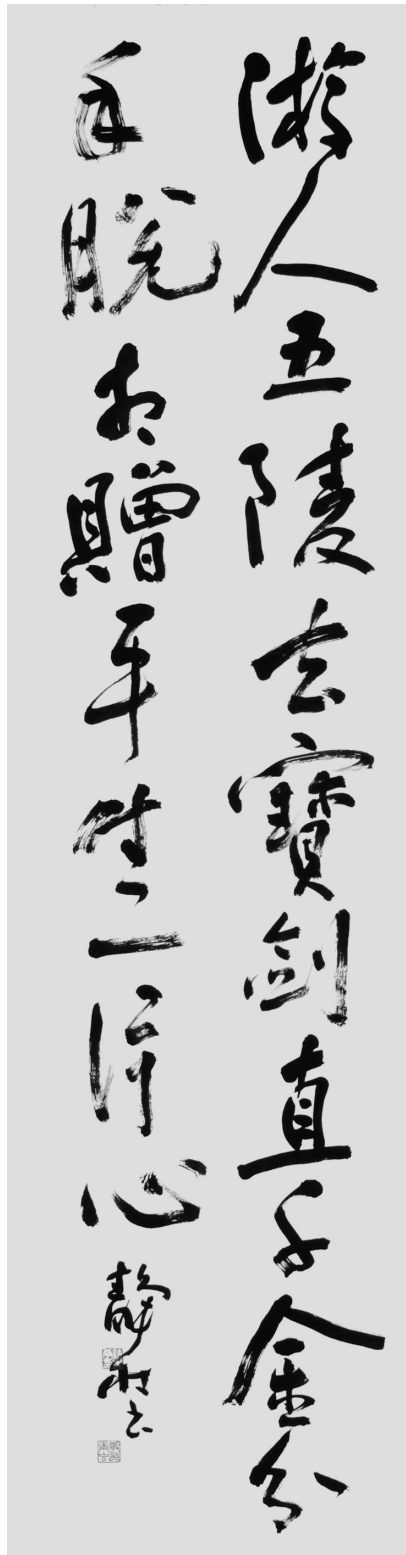
課題

行

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四三〇円
- (5) バーコード券貼付 太枠内の臨昇の隣の空欄に
一字と記入 段級は無記入

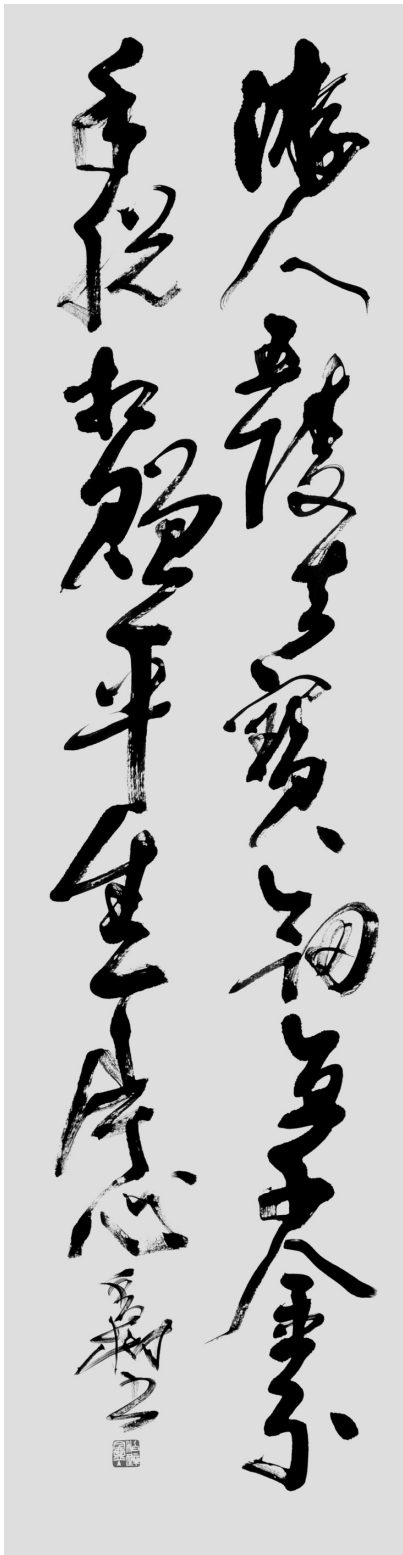
A
鈴木静村先生書

游人五陵去 寶劍直千金 分手脱相贈 平生一片心 (孟浩然)
游人五陵に去る。宝剣直千金。手を分つとき脱して相贈る。平生一片の心。



B
高橋香樹会长書

意連(脈絡)の実画は「見える通りには書かない」運筆の微妙な流れでの瞬時の表われ、気持ちのつながりが大切。線を書くことではないという
こと。陵 古典この形が多い。去 点は離して打つ。直 墨継ぎ。内部の点二、三どころも可。手脱 渴筆部分、墨の出大切に。相 墨継ぎ。生
一画目逆用筆は私のクセ。一「生」から意連。



五言絶句二十字です。草書・連綿線を多用する作としました。七字連綿一ヶ所、四字連綿二ヶ所、二字連綿二ヶ所です。漢字は左上から始まり右下で終わるものが多い為、連綿しようとするとう右下から次字の左上へと連綿線が長くなります。連綿線を短くするよう工夫したいものです。墨継ぎは直と相。

訳：旅人は五陵へと旅立つ。そのはなむけにふさわしい宝剣は、値千金にあたる。別れにあたり君にお贈りする。これが平素から君によせている心のしるしなのだ。

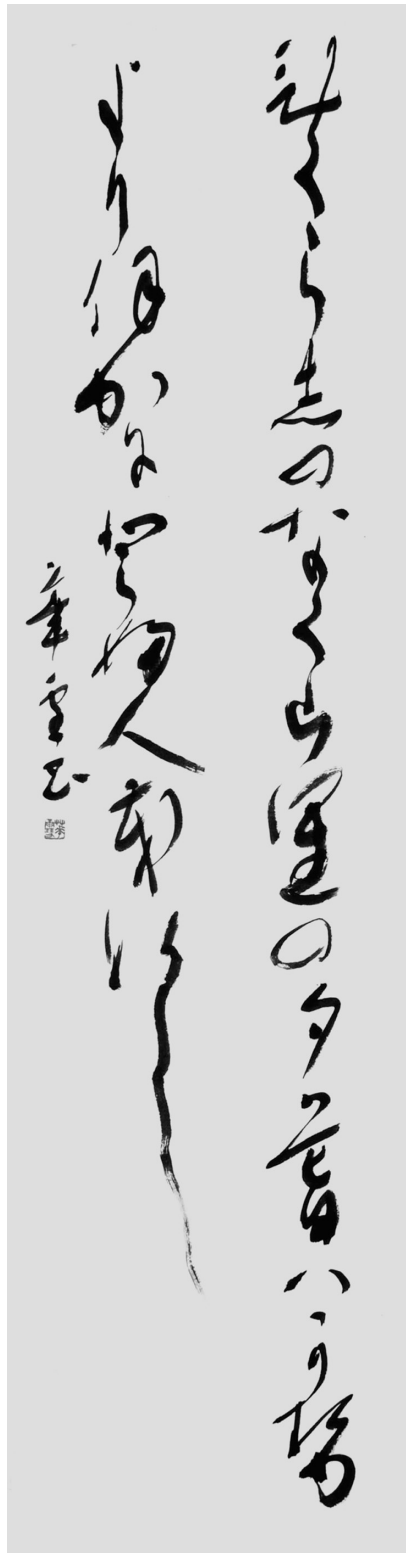
予告 昇試第一部漢字(九月二十二日締切) 三山海外祥煙繞 五色雲中瑞氣迴 (廖道南)

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

A

平岡華雪先生書

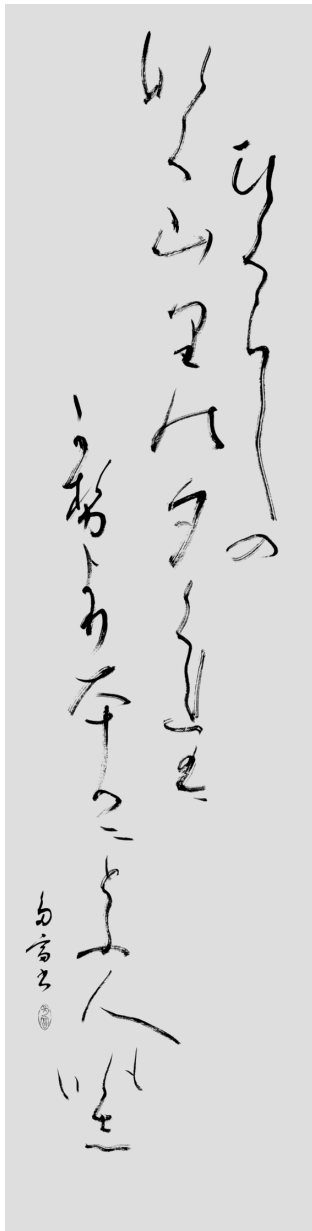
ひぐらしのなく山里の夕暮は風よりほかに訪ふ人もなし (古今和歌集 よみ人しらず)
 ひぐらしのなく山里の夕暮八可勢より保か登婦人茂那し



B

森多富先生書

ひぐらしのなく山里能夕久連盤可勢よ利本可二とふ人も那志



学び方

今月の華雪先生の作品は、「山里」「夕暮」の漢字の存在感ある書体とかなが呼応し、おおらかに仕上げられています。一行目の「山里の夕暮八」の連綿線を用いていないにも拘らず、筆の動きが見える筆致はさすがです。日頃から「体で書く意識を忘れずに」を心がけたいものです。筆遣いも習慣性になれば体の一部の様になって来ます。

B作品は、自然な流れを意識して書きました。一行目の「ひぐらし」は素直に連綿で流し、二行目は単体で並べてみました。三行目は、前二行に添う様に続けて全体をまとめました。

我が国初めての勅撰和歌集として知られる「古今和歌集」。初心者から上級者まで多くの人に親しまれ、書かれています。かな書の原点ともいえる古今和歌集に取り組み、研鑽に励みましょう。「高野切」「関戸本」「三色紙」等、手本となる古筆は数多くあります。自分の好みの書風を選んで、歌の心まで表現できたら素晴らしいですね。

予告 昇試第一部かな (九月二十二日締切)

山脈のとほくかかりてまどかなる月は今宵を満ちたるらしも (松村英一)

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

条 幅 部 随 意 参 考

戸張丘邨先生書

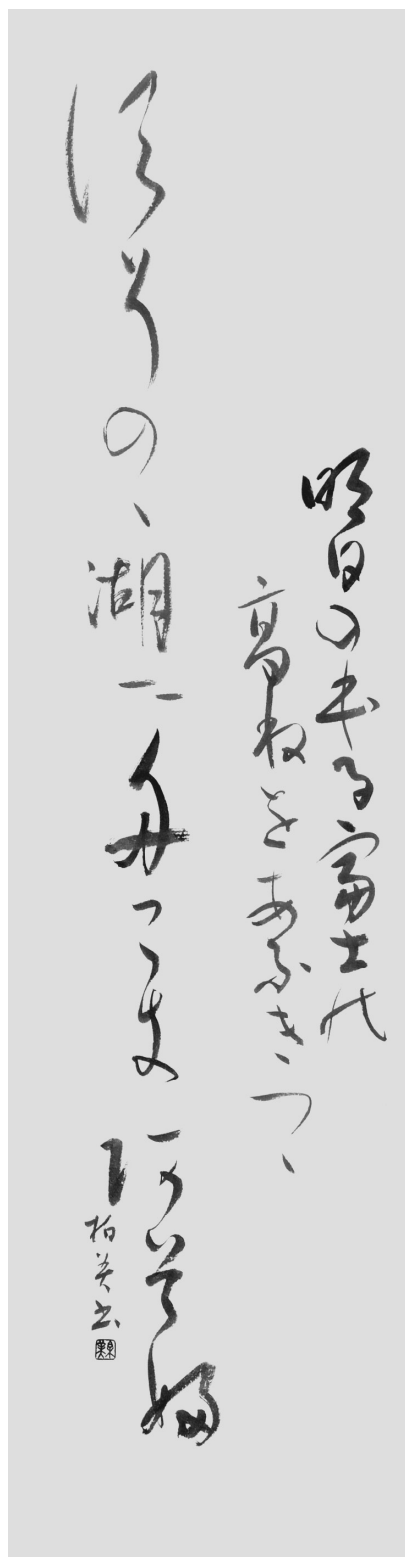
松竹水聲涼（沈周）
松竹水声涼し。



訳：青い松に翠の竹、水の声はとりわけ涼しい。

石島柏美先生書

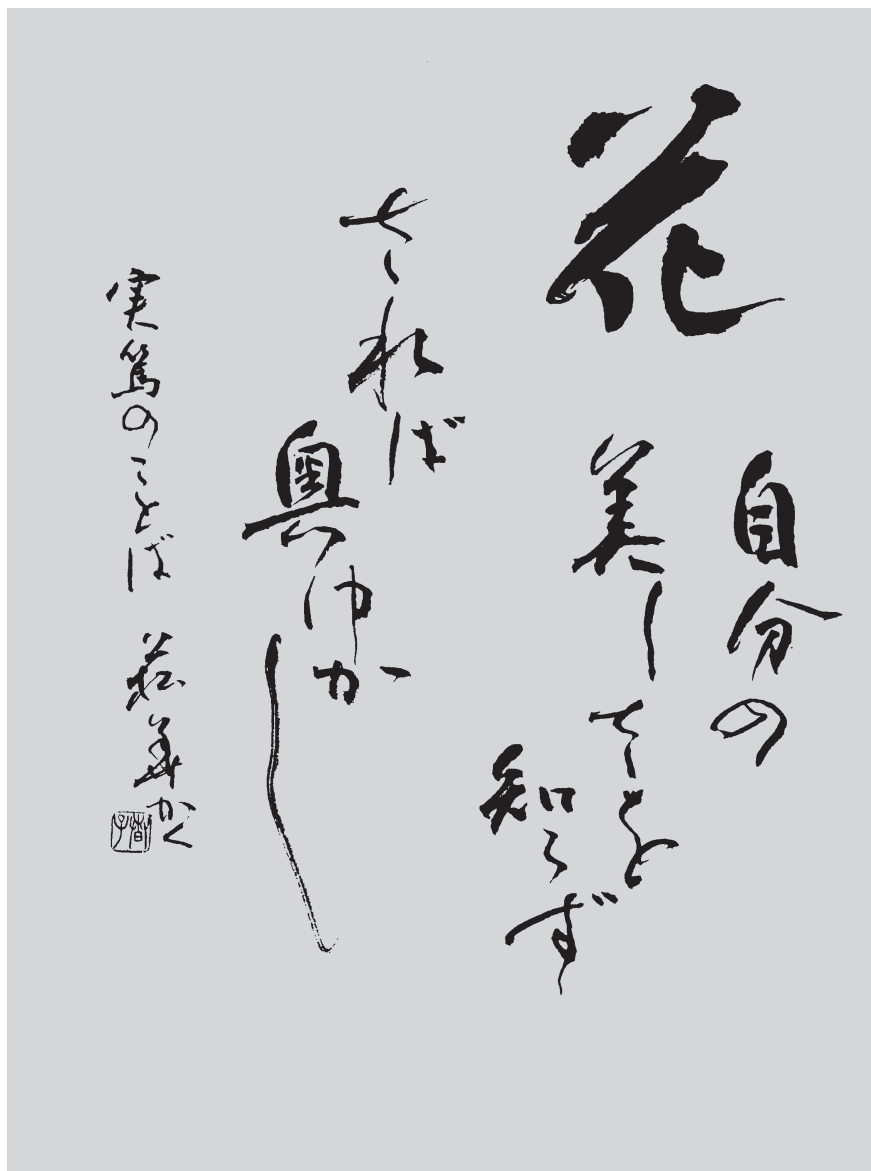
明日のぼる富士の高嶺を仰ぎつ、裾野の湖に舟こぎあそぶ（古泉千樞）
明日の本る富士能高ねをあふきつ、須曾の、湖二舟こ支阿そ婦



- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料540円）

小暮 菘華 先生 書

花 自分の美しさを知らず
されば 奥ゆかし
武者小路実篤



日本語の文章に於ける漢字の比率はおよそ三割程が読み易いという話を以前聞いたことがあり、今回はたまたまそうなります。「花」を主題にして大きく書き、以下の文でまわりを囲うように書いてみました。「花」のまわりに余白を作り、二つに分けた文字群の間も余白を作りました。
文字群の上部、下部は不揃いにします。墨継ぎはせず、線の太細の変化をつけながら

一気に書きました。皆様の作品を楽しみにお待ちしております。

武者小路実篤(一八八五〜一九七〇)小説家・詩人。東京生まれ。子爵家の末子。「白樺」を創刊。独特な口語文体で小説を発表。心を奮い立たせ、癒してくれる。「名言」多数。

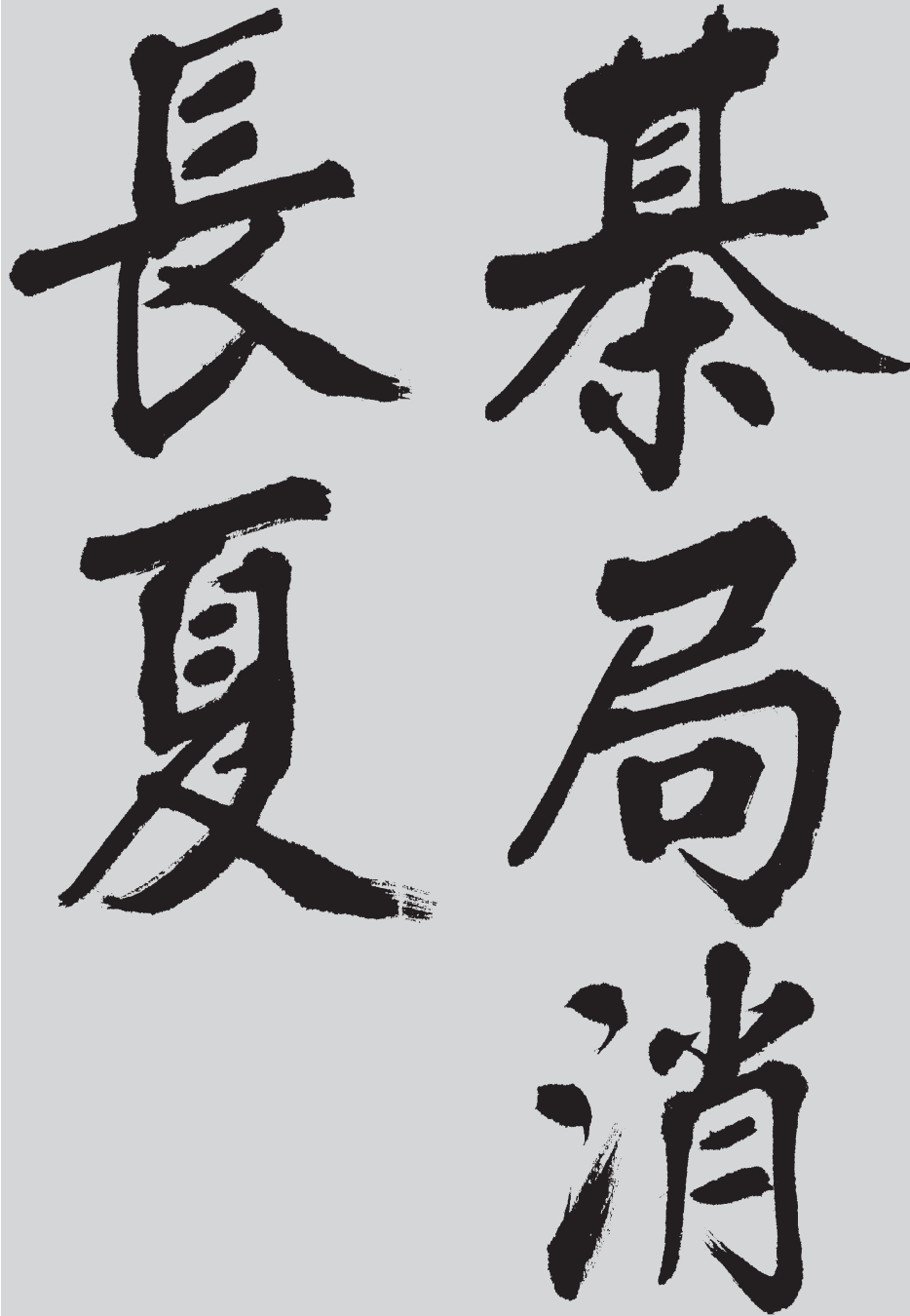
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

碁局長夏を消す(蘇軾)

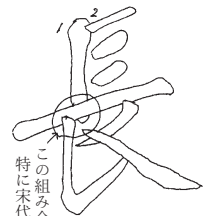
訳：夏の日なが碁を打ってすこす。



△ポイント二つ↓

○三つの右払いが、主画として、のびやかに書けるかどうか。ハミ出し、接触不可。

○「碁、消、長、夏」内の小横画は息張らないでサラリと軽く、しかも分間を等しく。



この組み合わせ特に宋代に多い

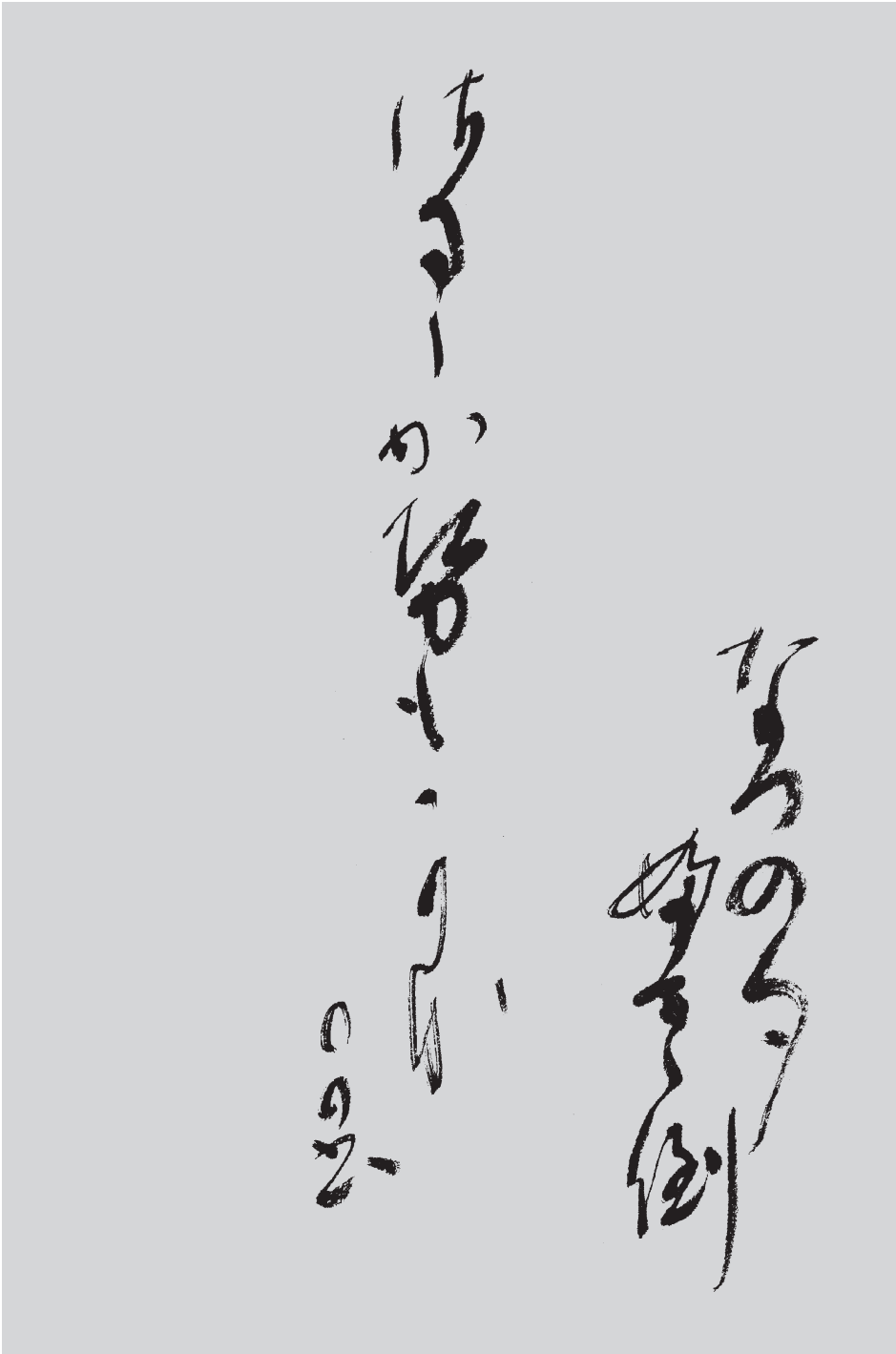
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

夏の夕吹倒さるゝ風もがな(蘭更)
 なつの夕婦き倒佐るゝか勢も可那(かな)

〈自分の呼吸を活かせるように〉
 左余白を大きくとった華雪先生が時折取り組まれる手法。本紙で感得できる線の活きと漲るリズム感、左余白を見事に吸収し切っている。初歩段階では至難かもしれない。各ランクに即した散らし方で開発してほしい。毎回のことがら、変体がな(特に「佐・勢・那」)の精習と連綿の事前練習の徹底を――。



予告 昇試第二部かな(九月二十二日締切)

わが背子が衣のすそをふきかへしうらめづらしき秋の初風(古今和歌集)

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

- ①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

高橋紫芳先生書

此身醒復醉（杜甫）
此の身こみ醒さめ復またた酔よう

訳：この身は酔いからさめて、また酔うことのくりかえし。

此身醒復醉
此身醒復醉
此身醒復醉

紫芳書


予告 昇試第二部漢字（九月二十二日締切）

乘輿即爲家（杜甫）

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

訳：しみずをもてあそぶ。



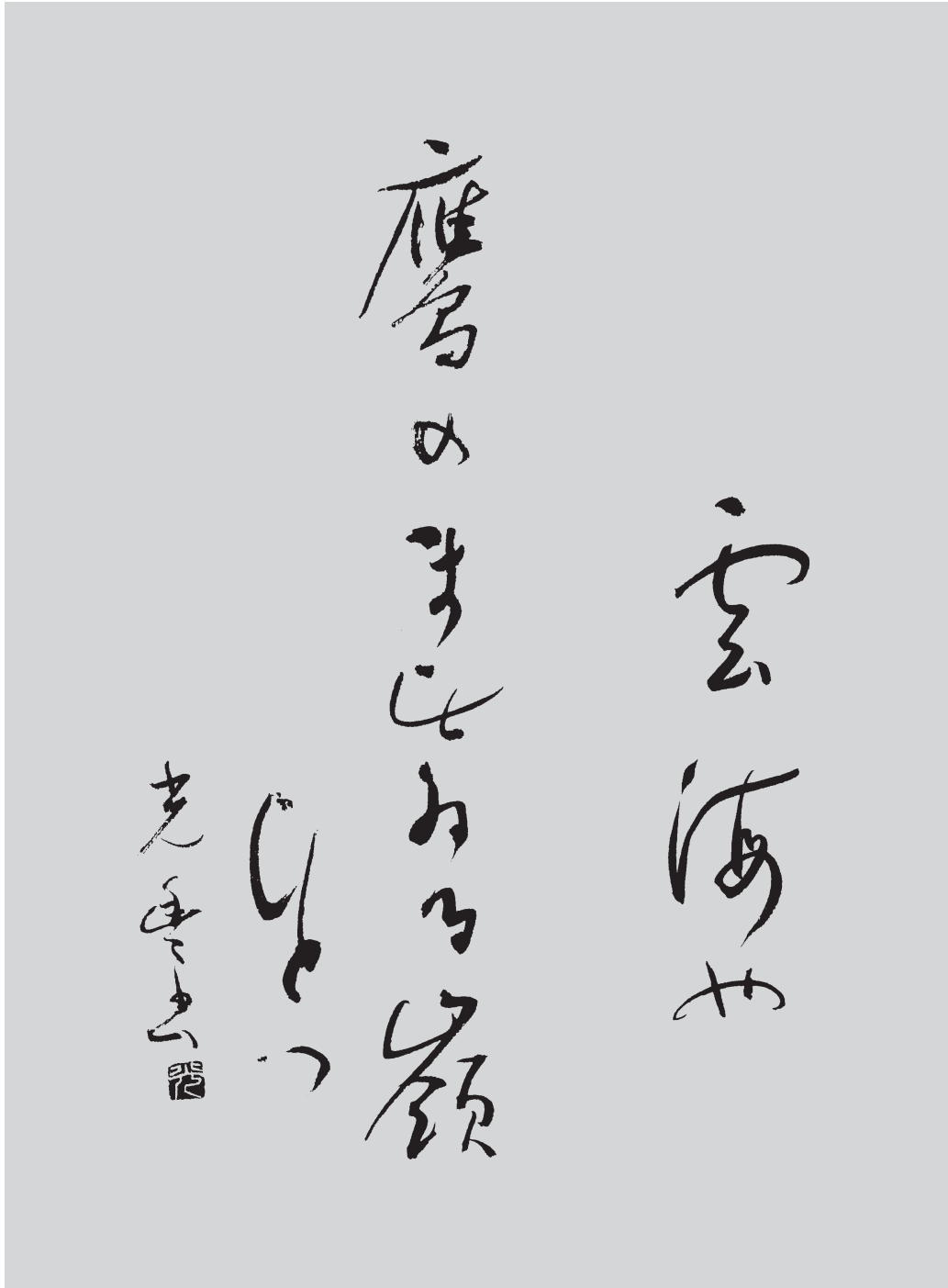
加藤洞雪先生書

弄清泉（呉子和）
清泉を弄す。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

絹
村
光
豊
先
生
書

雲海や鷹のまひゐる嶺ひとつ（秋桜子）
雲海や鷹のま比ゐる嶺ひとつ



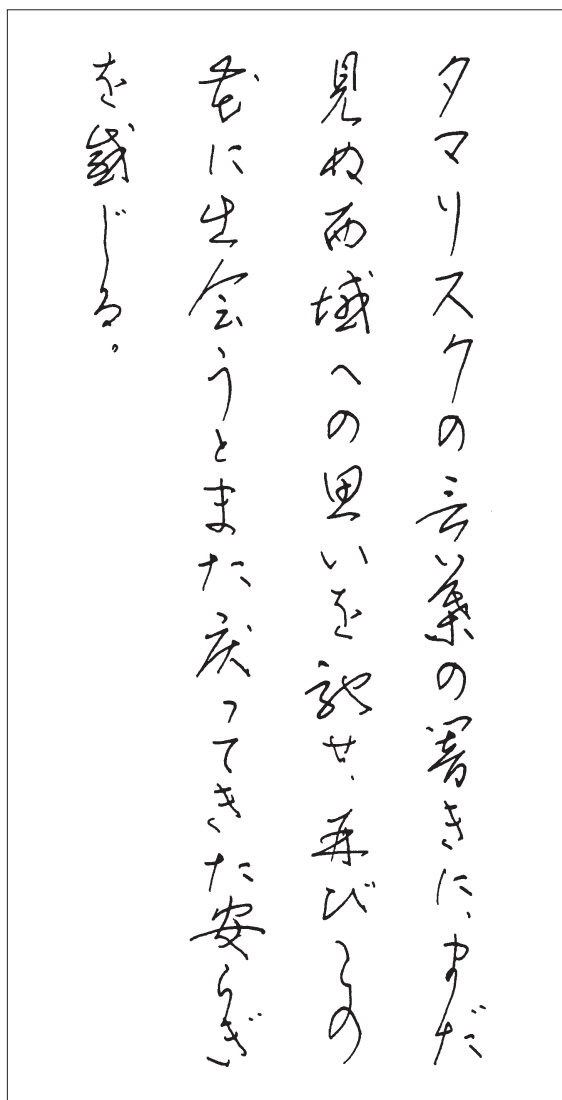
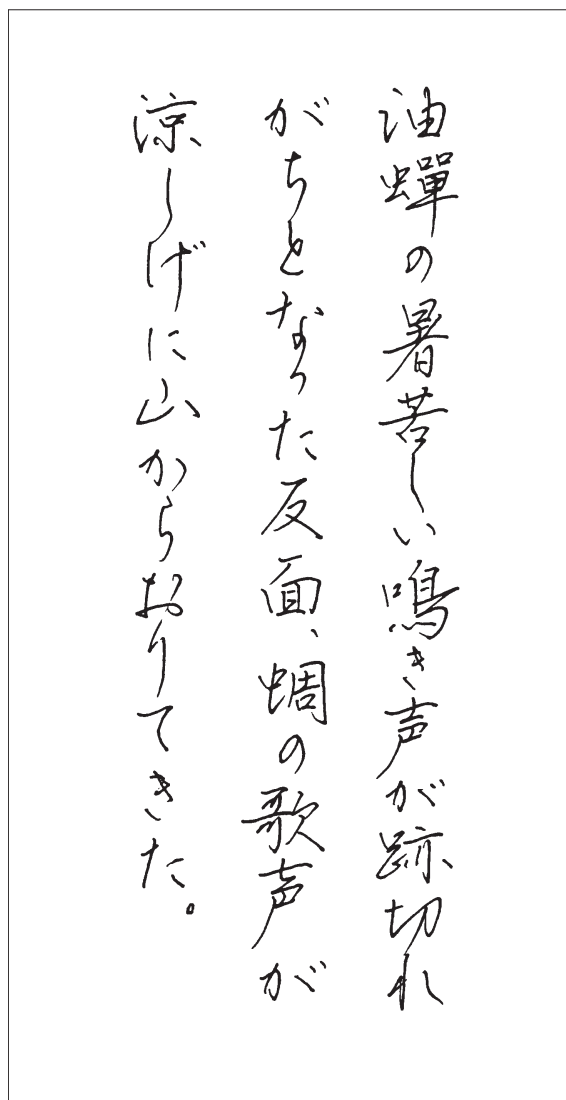
1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円

赤木典子先生書

石原春香先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

タマリスクの言葉の響きに、まだ見ぬ西域への思いを馳せ、再びこの花に出会うとまた戻ってきた安らぎを感じる。

「シルクロード歴史紀行」田中信義

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (5) 会員は無料・会員外は四三〇円

課題2 (初段階以下)

油蟬の暑苦しい鳴き声が跡切れがらとなつた反面、蝸の歌声が涼しげに山からおりてきた。

「永遠の都1夏の海辺」 加賀乙彦